

どの利用拡大を  
設重機の運搬や資  
な事業と

が、建設  
迷や不況  
造業の不  
に、請け  
が減少。  
便は、余  
ている車  
を活用し  
アップ策と  
した。  
車両は  
ック、四  
ク、ユニ  
十トラ  
六種類を  
用時間は  
間まで一  
に設定し  
種類と利

# H 2 1, 3, 2 6 (木) 北日本新聞掲載

始で年間一千万円の売り上げ  
増を目標としている。

や原料費高騰の影響で経常赤字となったが、最終損益は黒字を確保した。

の一万三千八百十二件となったが、病院や学校でのガス使

増収増益となった。

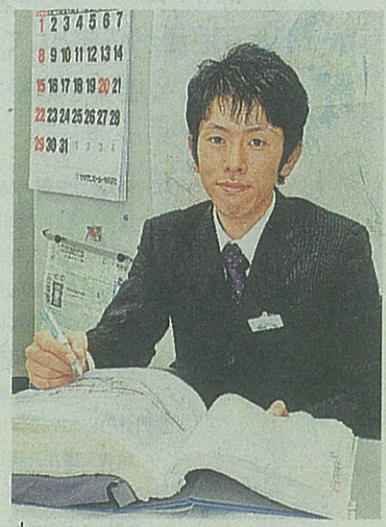
集中豪雨による浸水被害からまちを守るため、インフラ整備計画を立案している。実際に設計するのは、地下を走る水路や貯留池など、住民からは見えない施設が多いため「自分たちは黒子」と言いが、住民の安

## ビジネス 最前線

全に直結する仕事だけに、やりがいは大きい。  
現在、富山市内で二平方キロの地区を担当。一カ月かけて地区内すべての水路を歩いて回り、水路の幅や高さ、地形を測定。これら

新日本コンサルタント 水環境・防災部門 水工系グループ主任

城岸 巧さん (30)



会社メモ

昭和54年に設立。浸水対策や雨水施設の計画、道路や橋など公共インフラの設計を手掛ける。本社は富山市吉作、市森友明社長。資本金3000万円、従業員61人。売上高は6億700万円(20年10月期)。

## 豪雨から暮らしを守る

のデータを基に、雨水の流的に調べる。責任は重く、れをシミュレーションして必要な対策を練っている。  
しかし、相手は自然。計算方法などで悩むことも多い。「納得行くまで現場に足を運び、文献なども徹底

「住民のニーズにいち早く応えられるように、今後は限られた予算の中で減災効果を最大限に引き出し、効率的に仕事を進めるための技術を身に付けていきたい」と話す。

調査から工事完成までには二年近くかかるのが現状。

協和製作所 早川勇社長  
発行額は総額  
証協会保証付  
両信用金庫が  
受けた。期間  
資金に充てる  
富山けい  
電気事業  
北陸電気  
会長)は25日  
気ビルで電  
き、北陸で30  
従事し今年80  
労者と、優自  
彰した。  
電気事業  
傘寿功労  
19人と、優自  
の代表に、新  
と表彰状が贈  
アピラスポ  
彰一取締役